

三股町教育研究所

I	研究主題	6 - 1
II	主題設定理由	6 - 1
III	研究構想	6 - 2
IV	研究内容	6 - 3
1	研究内容と「教育の情報化に関する手引」との関連	6 - 3
2	教育の情報化に関する実態調査	6 - 4
(1)	第1回実態調査	6 - 4
(2)	第2回実態調査	6 - 5
3	教科指導・情報教育・校務の情報化において大切なこと	6 - 5
(1)	教科指導におけるICT活用で大切なこと	6 - 6
(2)	情報教育の体系的な推進で大切なこと	6 - 7
(3)	校務の情報化で大切なこと	6 - 8
4	操作マニュアルの作成	6 - 9
5	町教育研究会との連携	6 - 9
6	三股町における教育CIO制度	6 - 10
V	成果と課題	6 - 10
○	引用・参考文献	6 - 10
○	研究同人	6 - 10

I 研究主題

三股町における教育の情報化の研究 ～教科指導・情報教育・校務の情報化の在り方～

II 主題設定の理由

1 社会の急速な情報化の進展

インターネットが国際的な情報通信基盤となって社会に変革をもたらしているとともに、コンピュータや携帯電話などが広く普及し日常生活は大きく変化している。このようにあらゆる場面で情報化が進展する中で、情報の取捨選択や表現、コミュニケーションの手段として、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する能力が求められている。また、インターネットを使った犯罪やいじめ、有害情報など情報化の影の部分への対応も求められている。

このような状況の中で、平成22年5月に政府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部で決定された「新たな情報通信技術戦略」や、今回改訂になった学習指導要領において、各教科等における「教員による ICT ※1 活用」「児童生徒による ICT 活用」の双方での充実や児童生徒の ICT 活用等を通じた情報活用能力の育成、校務における ICT 活用が求められている。また、これらをスムーズに実現するために、「教育の情報化に関する手引」も作成された。

このように、情報手段を効果的に活用して、多様な情報を結び付けたり、情報を共有するなど、情報社会の進展に主体的に対応できる能力がすべての国民に必要とされるようになってきている。

2 三股町の特性と実態

三股町は、宮崎県の南西部に位置し、都城市と隣接しベットタウンとして人口増加傾向にある。また、昔から在住している人と転入した人が混在して価値観が多様化してきている。このような中で、学校と家庭・地域との連携がこれまで以上に求められている。

歴史的には、藩政時代から郷中教育が行われ、明治2年、三島通庸が振興してきたことから文教の町・「文教みまた」と言われており、「校門での一礼」「黙想・座礼」「無言清掃」などの伝統教育や、「棒踊り・奴踊り」などの伝統芸能が継承されている。さらに、平成22年度に「三股町児童生徒憲章」が制定されて伝統教育が着実に定着してきている。

また、町内には小学校6校と中学校1校があり、ほとんどの児童が三股中学校に入学する。そのために小中一貫した教育が進めやすい環境にある。更に、小規模学校や大規模学校が混在し、学校間の連携も求められている。

本町は、伝統教育と近代教育の両面を重視し、平成21年度には町内全教職員へのコンピュータの導入、全教室へのコンピュータ・大型テレビの導入がなされた。平成22年度にはそれらを活用した「文教三股子どもサミット」を開催したり、各学校で授業や校務で活用したりしているところである。

このような状況の中で、教育の情報化が少しずつ浸透しているが、学校差・個人差が大きく、このことに関して町全体として取り組むことが求められている。

3 これまでの研究所の取組

当研究所はこれまで3年計画で研究に取り組んでいる。

平成17～ 19年度	研究主題 「確かな学力を身に付け、『生きる力』を拓く子どもの育成」 副題 小中連携を大切にした学力向上を目指す学習指導の工夫・改善
平成20～ 22年度	研究主題 「三股の特性を生かした小中一貫教育の研究」 副題 学校と家庭・地域社会が連携した「あいさつ」「清掃」「郷土学習」の在り方

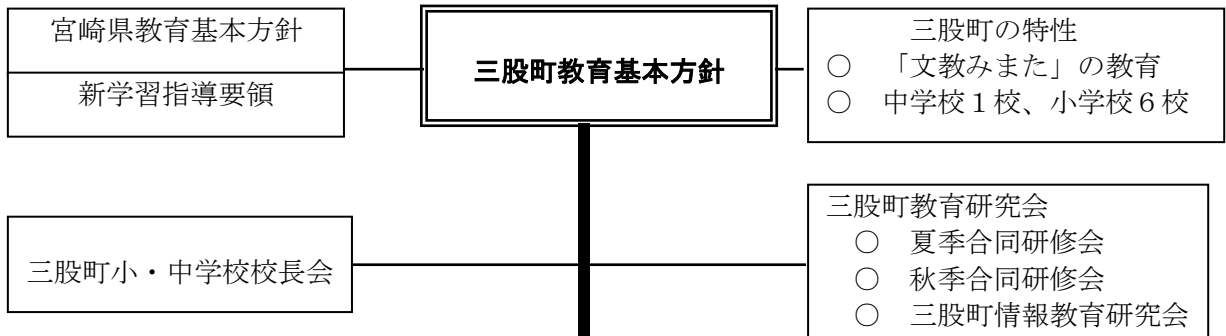
平成23年度から、これまでの経過を踏まえて、三股町の新たな教育課題の解決に向けた研究が求められている。

4 三股町における教育の情報化に関する研究の必要性

以上のように、社会の急速な情報化の進展、三股町の特性と実態、これまでの研究所の取組から、三股町における教育の情報化に関する研究は必然的な課題である。そこで、研究主題「三股町における教育の情報化の研究」、副題「教科指導・情報教育・校務の情報化の在り方」について平成23～25年度まで3年計画で研究することにした。

※1 「ICT」とは、Information and Communication Technology の略、情報コミュニケーション技術のこと。

III 研究構想



研究主題

主題 三股町における教育の情報化の研究
副題 ～教科指導・情報教育・校務の情報化の在り方～

研究目標

三股町の小・中学校における教育の情報化の在り方について、「教科指導におけるICT活用」「情報教育の体系的な推進」「校務の情報化の推進」の3点を中心に究明する。

研究で目指す学校像・教師像・児童生徒像

- 教育の情報化を推進し、質の高い教育活動を展開しようとする学校
- ICTを活用した教科指導や情報教育に関する指導ができて、児童生徒と向き合うために校務を効率的に行おうとする教師
- 情報活用能力と情報モラルをバランスよく身に付け、進んで学習や生活に生かそうとする児童生徒

研究仮説

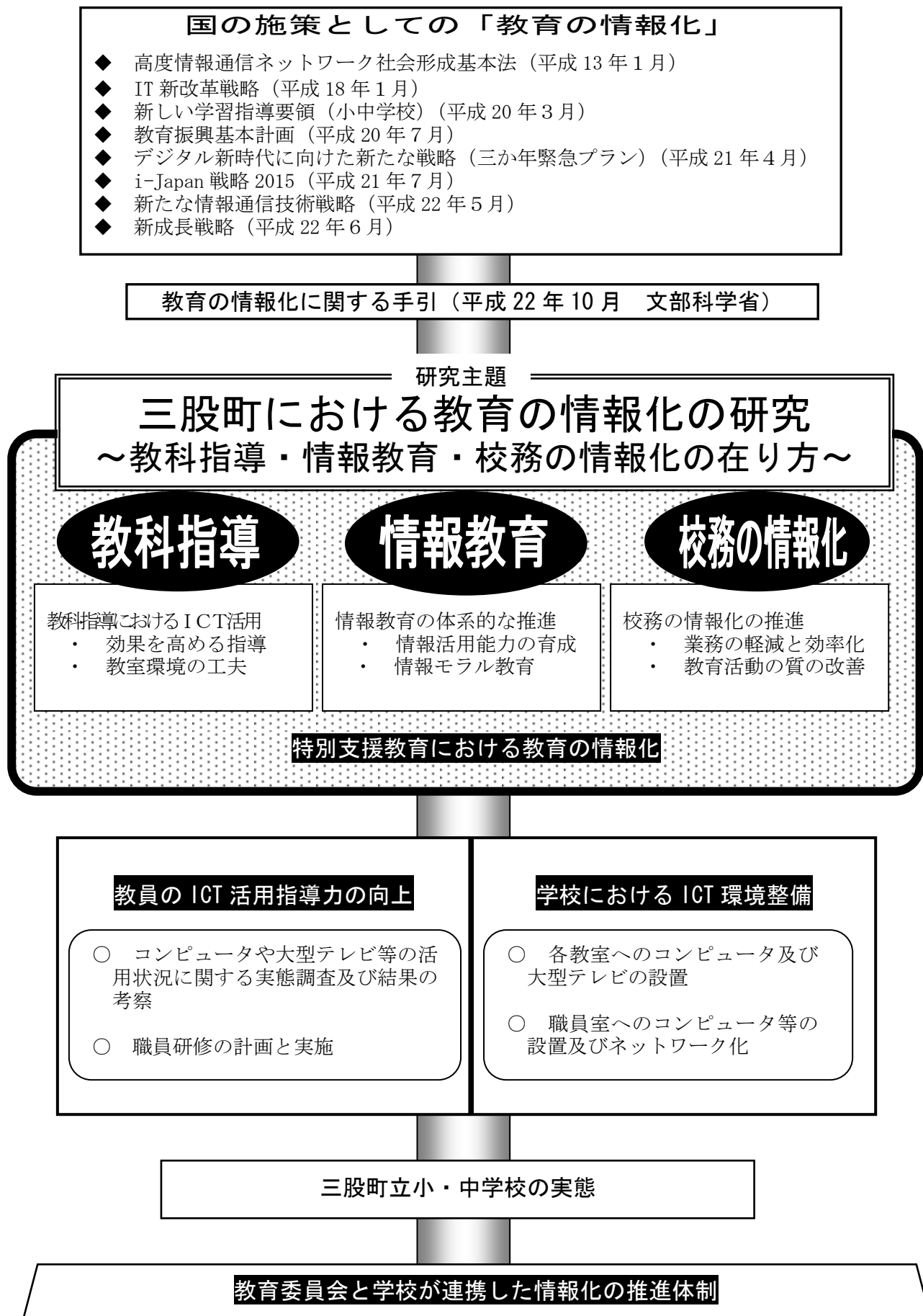
三股町立小・中学校において、教育の情報化に関する課題やニーズを明確にし、教科指導におけるICT活用、情報教育、校務の情報化を推進すれば、学校教育の質を高めることができるであろう。

研究内容			
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
教科指導におけるICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTを活用に関する考え方の整理 ○ 教室環境の整備に関する資料の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の開発 ○ ICTを活用した授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の開発 ○ ICTを活用した授業研究
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報活用能力に関する考え方の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等の年間指導計画における位置付けの明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報活用能力 ・ 情報モラル 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報活用能力に関する実践例 ○ 情報モラルに関する授業研究
校務の情報化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務の情報化に関する考え方の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務の情報化に関する実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務の情報化の推進

実態調査及び変容調査を適宜行う。

IV 研究内容

1 研究内容と「教育の情報化に関する手引」との関連

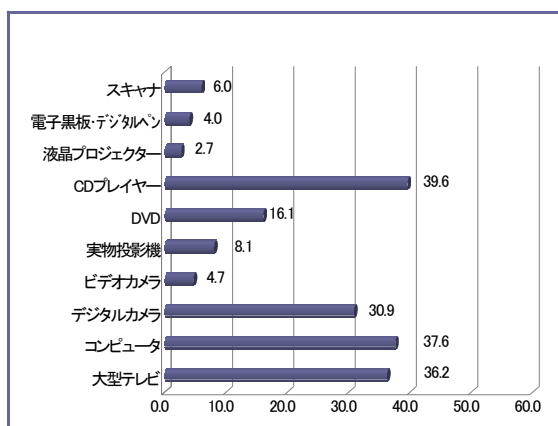


2 教育の情報化に関する実態調査

(1) 第1回実態調査（全教職員対象、マークシート方式、平成23年6月実施）

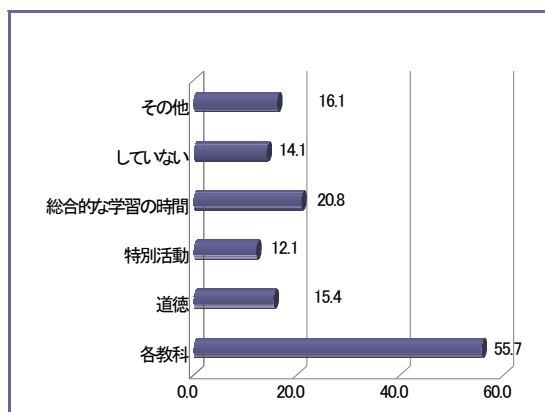
情報機器活用の実態を把握するために全教職員を対象に調査した。結果処理を迅速にするためにマークシート方式をとった。紙面の都合で結果の一部を掲載する。

【利用頻度の高い機器 複数回答】

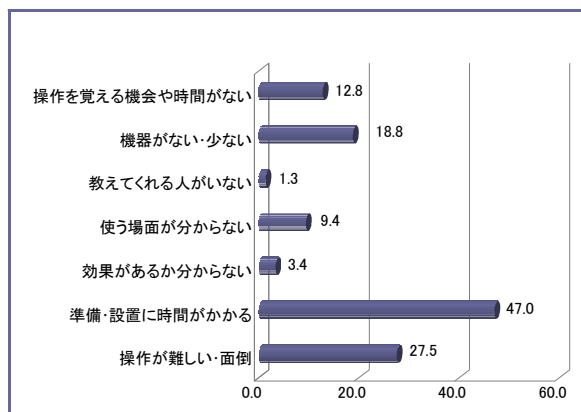


- 利用頻度の高い機器として、コンピュータが約38%を占め、CDプレイヤーに次いで利用頻度が高い。
- 大型テレビは36%、デジタルカメラが約31%と比較的に利用頻度が高い。
- 実物投影機、スキャナ、デジタルペン、液晶プロジェクタ、ビデオカメラ等は利用頻度は低い。機器の設置状況にも関連する。

【授業別活用状況 複数回答】



【活用が少ない理由 複数回答】



【分析・考察】

- 大型テレビやコンピュータを利用する頻度は高い。全学級に設置していることが要因にあると考えられるが、まだまだ十分ではない。
- 授業別活用状況では、「各教科」が他に比べて群を抜いて高い。
- 活用が少ない理由として、「効果があるか分からない」が3.4%である。ほとんどの教職員は機器活用の効果を期待しても、活用できない理由があると考えられる。
- 活用が少ない理由として、「準備・設置に時間がかかる」が全職員の約半数を占めている。これは、コンピュータと大型テレビ等の接続や大型テレビの設置場所に要因があると考えられる。また、複数の機器（大型テレビとコンピュータ、大型テレビとデジタルカメラ等）の組み合わせた活用に習熟していないことが考えられる。
- 従来のように、大型テレビ（録画を見せる・番組を見せる）や、コンピュータだけ（コンピュータ室に行って、お絵かき等をさせる）はまあまあ活用がある。しかし、複数機器を組み合わせた活用（コンピュータと大型テレビ等）では接続や操作が複雑になり、敬遠されると考えられる。
- 視聴覚機器全体について、活用している教師と活用していない教師との個人差が大きい。

【対策】

- 「準備・設置に時間がかかる」ということを解決すれば、活用は高まると考えられる。また、機器活用法の研修、不足機器の導入によって活用頻度は高まると考える。
- 今後は、校内のサポート体制、学校を越えたサポート体制が必要である。

(2) 第2回実態調査（全教職員対象、記述式、平成23年8月実施）

第2回調査は、夏季研修会の中で次の設問について全教職員に記述してもらった。

- ・ 第1回調査結果に関する意見・感想
- ・ 情報機器を活用した授業、校務の効率化、児童生徒への情報教育に関する意見
- ・ 研究所への要望（調査、理論、実践、資料、マニュアル、その他）

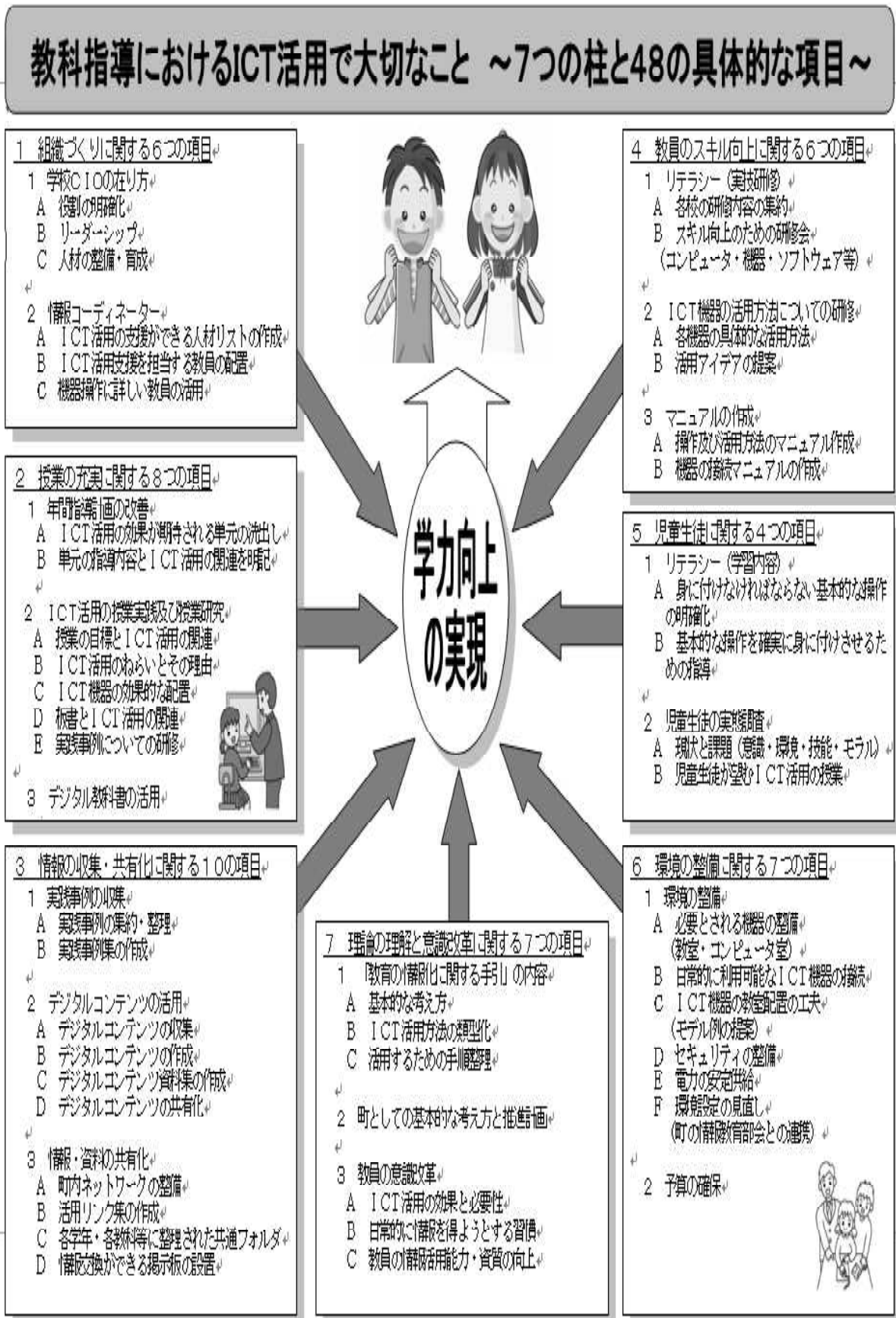
結果・分析

- 1 ICTや大型テレビなどの現在ある機器の活用が図られていない理由について
 - ・ ICT活用に関する意識の高揚がなされていない。
 - ・ 利用の仕方の研修が必要である。
 - ・ 準備や設置の時間や負担の軽減が必要である。
- 2 教職員の多忙感について
 - ・ 教員の忙しい日常の中では機器活用が困難であるという意見がある。
 - ・ ICTが苦手な教職員にとっては「ICTを使うことが多忙になる」という不安もある。
 - ・ 校務多忙のために機器が活用されていない現状では時間の確保も必要である。
- 3 情報の共有について
 - ・ 他の学校との情報の共有化ができると便利であるという意見が多い。
- 4 機器等の要望について
 - ・ 実物投影機、デジタル教科書、回線の高速化を希望している教職員が多い。
- 5 校務の情報化について
 - ・ 学校全体で話し合っ、指導要録やあゆみ等の校務の軽減を期待する意見が多い。
- 6 研究所への要望
 - ・ 情報漏洩が不安なので情報の管理について知りたい。
 - ・ 教科指導等におけるICT活用や情報教育・情報モラル教育の指導の在り方から着手した方が良いと思う。
 - ・ たくさんの実践例が欲しい。
 - ・ 普通の授業で使える実践授業を研究所で研究して広めて欲しい。
 - ・ いつも使わないといけないのではなく、使った方が望ましい場面で使うことが重要である。研修会等で使い方などを指導してもらっても、活用しないと忘れるのでわかりやすい操作マニュアルなどがほしい。

3 教科指導・情報教育・校務の情報化において大切なこと

教育の情報化を円滑に推進するために調査結果を生かしながら、理論研究として「教育の情報化に関する手引（文部科学省）」を活用した。当研究所では、「教科指導におけるICT活用で大切なこと～7つの柱と48の具体的な項目～」 「情報教育の体系的な推進に大切なこと」 「校務の情報化で大切なこと」についてKJ法を用いてまとめた。これは秋季研究会で発表して、町内の全職員に配布した。


(1) 教科指導におけるICT活用で大切なこと ～7つの柱と48の具体的な項目～



(2) 情報教育の体系的な推進で大切なこと

情報教育の体系的な推進に大切なこと

1. 各教科等及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間

各教科等の指導	道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導
<ul style="list-style-type: none"> ●毎時間の授業の中で、情報活用能力を高めるための意図的な手立ての構築 ●各教科・単元で身に付けさせることのできる「情報活用能力」の洗い出し ●情報教育に必要な環境の整備。 ●情報活用能力育成のための指導事例集を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報教育・情報モラルに関する指導の位置づけ、年間指導計画の見直し。 ●情報教育・情報モラルに関する指導のための教材づくり。 ●情報教育・情報モラルの指導法の研究。
体系的な指導	評価
<ul style="list-style-type: none"> ●情報教育の指導内容を小1～中3まで並べて、体系的に指導できるようにする。 小学校段階での基本的な操作から中学校技術の指導内容まで考慮して ●身に付けさせたい情報活用能力について、児童・生徒との共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報活用能力を、どう評価するか。 ●児童・生徒の自己評価の研究。 

2. 研修・環境整備

教師の研修(理論・操作)	教師の研修(情報モラル)
<ul style="list-style-type: none"> ●学校全体での情報教育の推進と活性化。 ●情報教育の学校における体系的な推進についての理論研究。 ●情報教育はコンピュータがなくても指導できることがあるという認識。 ●教師自身が実践力をつけるための操作についての研修。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報モラルについての職員の研修。 ●昨今のインターネット上で起きていることに関する知識。 ●携帯電話等におけるトラブル・犯罪行為等の対処の仕方についての研修。 ●情報モラルや関係トラブルに関する法律の正しい知識。 ●各学校で、児童生徒に身に付けさせたい情報モラル等について、共通理解を図るための研修。
環境整備	実態調査・家庭との連携
<ul style="list-style-type: none"> ●機器・通信などのインフラ整備。 ●ICT機器の設置・整備。 ●教室PC・視聴覚機器をより活用できる環境整備。 ●教員による情報コーディネーターの配置。 ●ICT支援の人的サポート体制の整備。 ●小中連携兼務教員の配置。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報活用能力に関する児童生徒の実態調査。 ●ネット機器利用の実態調査。 ●情報モラルについての実態調査。 ●保護者向け情報モラル研修会の実施。 ●情報教育の家庭との連携・理解の共有を図る。



★「情報教育の目的」の明確化

- 各教科の目標や教科指導におけるICT活用のねらいと情報教育の目標との関係・学習活動の関連性をわかりやすくまとめる。
- 各学年における児童生徒に身に付けさせるリテラシー・情報活用能力の内容をはっきりさせる。

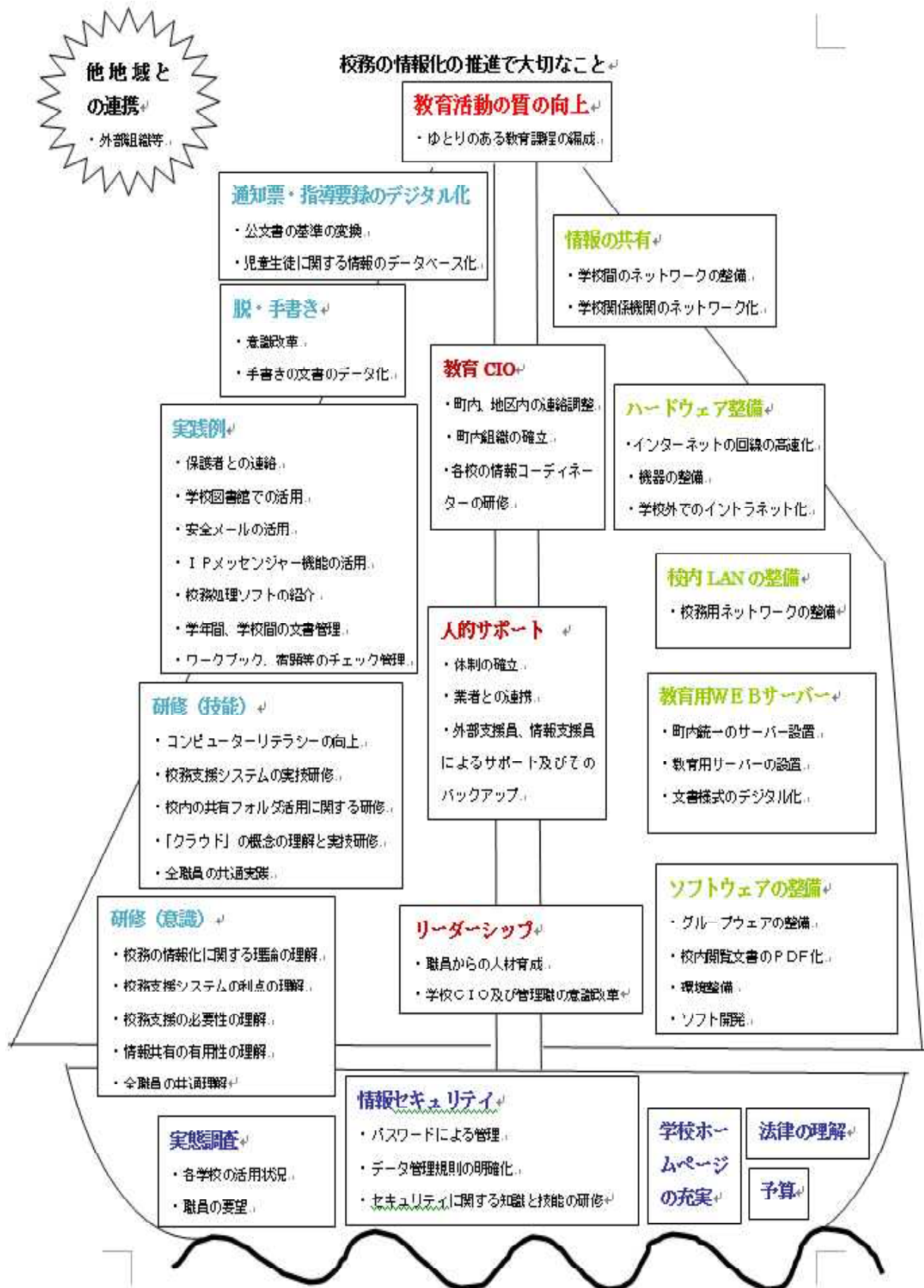
★「情報活用能力」って何？



文部科学省が提唱する情報活用能力には、次の3つのものがあります。

- ①「情報活用の実践力」…「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」の育成。
- ②「情報の科学的な理解」…「情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解」の育成。
- ③「情報社会に参画する態度」…「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」の育成。

(3) 校務の情報化で大切なこと








4 操作マニュアルの作成

調査の結果、ICTに関する機器操作マニュアルの要望が多いことがわかった。当研究所では、機器操作マニュアルの作成に取り組んでいる。

作成マニュアルの予定としては、コンピュータの使い方、実物投影機の使い方、デジタルカメラの使い方、各種ソフトウェアの使い方等を考えている。

大型テレビ接続・設定

■録画の仕方

- 1 TVの電源を入れ、「番組表」を押す。

- 2 予約したいものを選ぶ。

- 3 録画予約するを選ぶ。

- 4 リモコンの色を使うと便利♪

動作を確定するときには決定ボタンをよく使います。

左右に動かすときには←→、前の画面にするときには戻るボタンもよく使います。
- 5 録画した番組を見るときは、リモコンの「見る」ボタンを押して、番組を選ぶ。

■パソコンとTVの接続の仕方(一般編)

授業実践例や操作マニュアルについては、各小中学校に配布するとともに、Web形式でまとめたものも配布し、教職員がパソコンで見ることができるようにする予定である。また、啓発用マニュアルについては、印刷してラミネート加工したものを機器のそばに置き、それを見ながら操作できるようにする予定である。

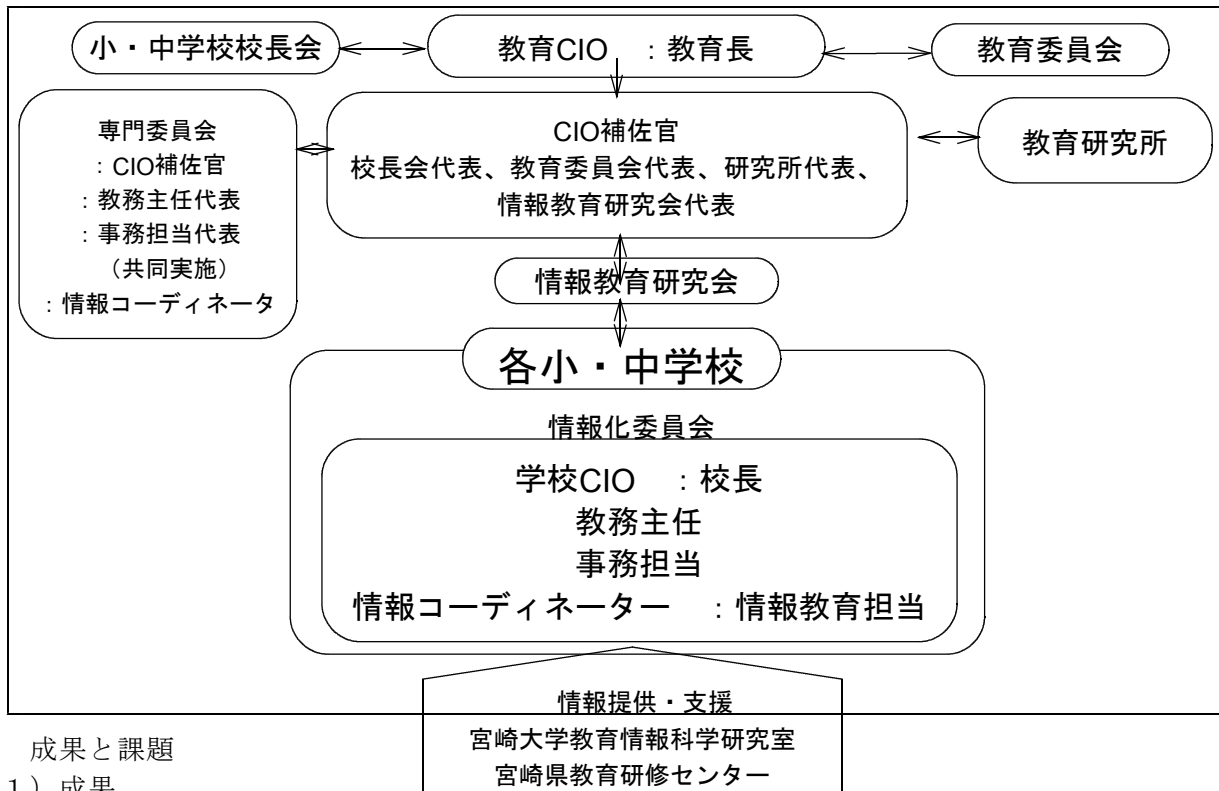
5 町教育研究会との連携

当研究所は、町校長会、町教育研究会、情報教育研究会と連携して発表会や研修会をしている。これは、当研究所と学校との連携を密にして、教職員と一体になって研究推進することを目的としている。本年度の研修会は次の通りである。

- ・ 夏季研修会（町立小・中学校全教職員） 平成23年8月3日
場所 社会福祉施設「元気の杜」
研究所発表「町内小・中学校におけるICT機器活用状況について（調査結果報告）」
講演「学力向上にかかわるICT活用の推進」
講師 宮崎県教育研修センター 情報・相談課 副主幹 衣笠高広先生
- ・ 秋季研修会 平成23年11月16日
場所 三股町立三股小学校
対象 町内小・中学校全教職員
ICTを活用した授業の参観（全学級）
研究所発表「三股町における教育の情報化の研究」
ICT活用に関する各学校からの報告
情報交換
- ・ 三股町における教育の情報化の推進に関する研修会 平成23年12月16日
場所 中央公民館
対象 教育委員会、校長、教務主任、情報教育担当、事務担当、研究員
講義 教育委員会・学校における教育の情報化の推進
講師 宮崎大学大学院 教授 新地辰朗先生

6 三股町における教育C I O制度

研究所の役割の中でも、研究した内容を町内に広めることはとても重要である。そこで、教育の情報化を進めるための町内の組織作りを行った。また、セキュリティの指針も作成した。



V 成果と課題

(1) 成果

- ・ ICT活用についての町内の実態が明らかになったことで、その実態に合わせた研究内容を設定することができた。
- ・ 今年度は3カ年計画の1年目として理論研究を中心に「教育の情報化に関する手引」を熟読することで、町内の教育の情報化の道筋を立てることができた。
- ・ 設置されてある機器のマニュアルを作成して教職員がより利用できる環境をつくった。
- ・ 町内のC I O制度を整えたことで、組織的に町の情報化を進める体制が整った。
- ・ 町教育研究会と連携して研修会を実施し、ICTへの理解と意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・ 今年度は理論研究が中心であったので、来年度は実践的な研究が必要である。
- ・ C I O制度が整ったので、来年度は町と学校が一体となって検証する必要がある。

○ 引用・参考文献

- ・ 教育の情報化に関する手引 平成22年10月文部科学省
- ・ 学習指導要領 平成20年 6月文部科学省

○ 研究同人

田中 久光 (所長 三股町教育委員会)	野元 祥一 (次長 三股町教育委員会)
出水 真弓 (研究所担当 三股町教育委員会)	黒木 敏行 (研究指導員 三股町教育委員会)
小野田武晃 (研究員 三股町立三股小学校)	古川 ゆか (研究員 三股町立三股小学校)
享保健太郎 (研究員 三股町立勝岡小学校)	原 圭史 (研究員 三股町立梶山小学校)
内村 和義 (研究員 三股町立宮村小学校)	石崎 文代 (研究員 三股町立長田小学校)
鹿嶋美由紀 (研究員 三股町立三股西小学校)	平田 智希 (研究員 三股町立三股西小学校)
渡邊 友恵 (研究員 三股町立三股中学校)	中世 宏樹 (研究員 三股町立三股中学校)